

論文審査の要旨  
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 ( 学 術 )	氏名 Author	山根 友美
学位授与の要件	学位規則第4条第1・②項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation	Decision-Making toward the Achievement of the Sustainable Development Goals: Survey Experiments on Stakeholders' Preferences		
論文審査担当者 Dissertation Committee Member	主 査 Committee Chair 教授 金子 慎治 印 Seal 審査委員 Committee Member 教授 市橋 勝 審査委員 Committee Member 教授 吉田 雄一郎 審査委員 Committee Member 教授 後藤大策 審査委員 Committee Member 准教授 川田 恵介(東京大学社会科学研究所)		
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review	<p>SDGs (持続可能な開発目標) の達成には企業活動が重要な要素のひとつであるが、そこでは企業活動に影響を及ぼすさまざまなステークホルダーの行動変容が鍵となる。本研究では、とりわけ企業選択行動に着目し、主に日本全国を対象とした2年間にわたる独自のオンライン調査のデータと副次的に広島大学の学生を対象としたオンライン調査のデータを用い、SDGsに向けた企業の積極的な取り組みが各種企業選択(消費行動、就職活動、投資行動)にどのような影響を及ぼすかについて各種分析を行った。第1章は序論として既往研究に基づく本研究の動機や目的を説明した後、第2章では各章で横断的に関連する共通の調査方法や分析方法についてまとめて説明した。第3章では、企業のSDGsに対する取り組みは、これまでのCSR(企業の社会的責任)とは異なり、単なる社会貢献ではなく、本業を通じて行われることの重要性が問われていることへの理解が、どのようなSDGs目標に、どのように積極的に取り組むかによって企業の評価や選択に対してどう影響を与えるかを分析した。第4章では、これらの企業選択について、消費行動、就職活動、投資行動のそれぞれの目的に分けて分析した際の相違について検討した。さらに、第5章では、パーソナリティや環境意識などさまざまな個人属性の違いが企業選択行動にどのような違いをもたらすかを分析した。第6章では、とりわけZ世代やゆとり世代と言われる若者世代がどのようにSDGsに積極的に取り組む企業を評価するのか、企業選択行動が他の世代とどう異なるかについて検討を行った。これらの結果を総括して、(1)SDGsへの取り組みは企業選択に影響を与え、その影響は消費、投資、就職の順に大きい。(2)本業を通じた取り組みが評価されるという考え方の浸透は、企業選択に影響を与える。(3)SDGsのどの目標に取り組むかによって影響が異なり、それは個人の考え方や属性によっても大きく影響される。(4)若者世代はよりSDGsへの取り組みにポジティブな影響を受けやすい、などを明らかにした。なお、これらの主要成果は、4編のインパクトファクター付き国際ジャーナルに学術論文として掲載済みである。</p> <p>以上を踏まえ審査した結果、審査委員全員一致で、本論文が著者に博士(学術)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>		